



安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すために、誤った取り扱いをすることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

△警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
△注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

- 紙記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
- 紙記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

- △警告**
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
分解・修理・改造禁止
 - 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
 - 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
火災・感電の原因になります
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
埋込禁止

- △注意**
- レンジフードは、薄板の金属部（室内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
取付注意
 - 交流100V以外では使用しないこと
使用禁止
 - 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮すること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります
 - レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落しによりけがをするおそれがあります
 - 周囲温度が40°C以上になると、落しによりけがをするおそれがあります
 - 部品の取り付けは確実におこなうこと
落しによりけがをするおそれがあります
 - 運転中は指や物を絶対に入れないこと
接触禁止

取り付け上のお願い

● 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。

- ・大工事【設置のための下地工事等】
- ・配線工作【コンセントの設置、コンセント・コネクタ・接続用以外の配線接続等】
- ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】

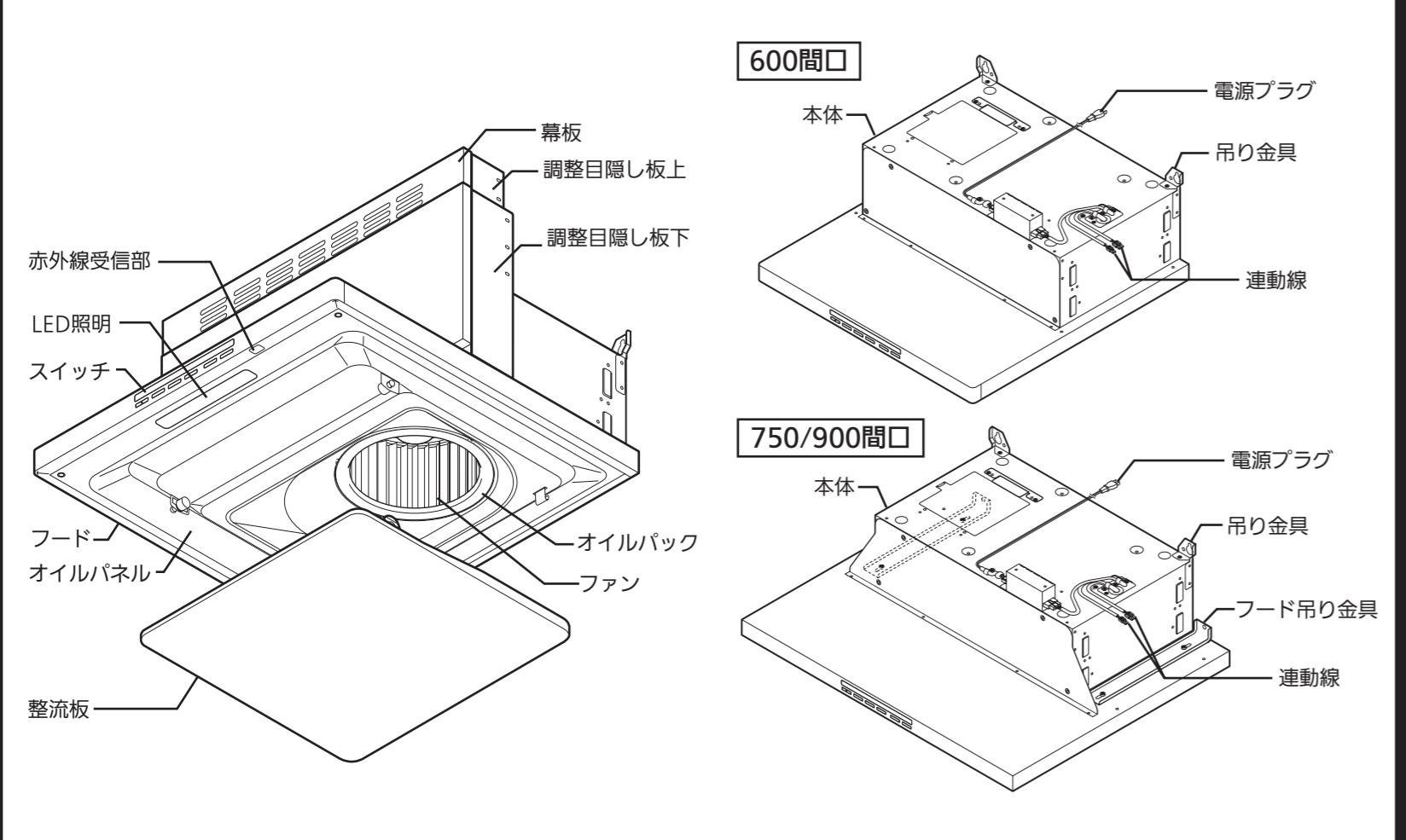
流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

● ダクトの不燃処理について
・ダクトは50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指掌書」（検査要領書）に従ってください。
● 調理機器の場合はレンジフードの幅以内のものを使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。

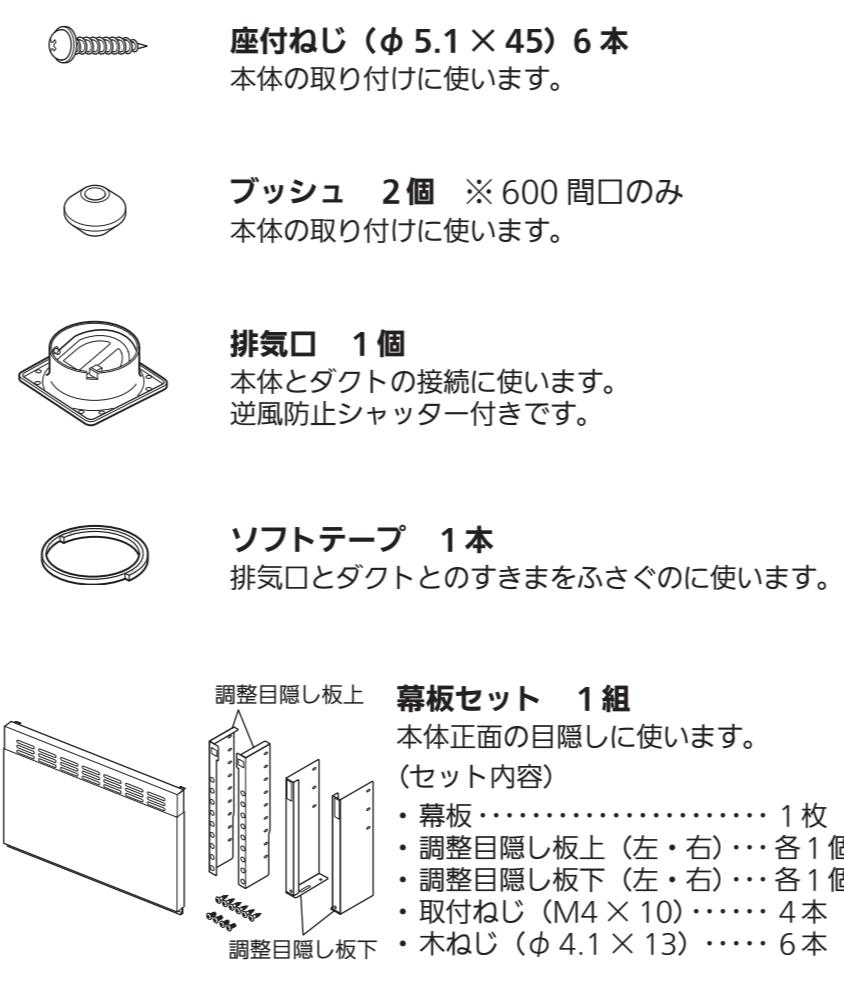
- 屋外壁面の排気口に取り付けるペントキャップまたはバイブードの通気抵抗は400m³/h時50Pa以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効率をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用座ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取付用座ねじは45mmの長さのものが同梱されていますが、壁下地の石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けてください。
また、横方向50cm以上離して取り付けてください。
湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm³/程度の空気吸入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。
レンジフードへの通電が遮断されると、お手入れ時期の表示（お手入れランプ）を正しくお知らせできなくなります。

● 80cm以上

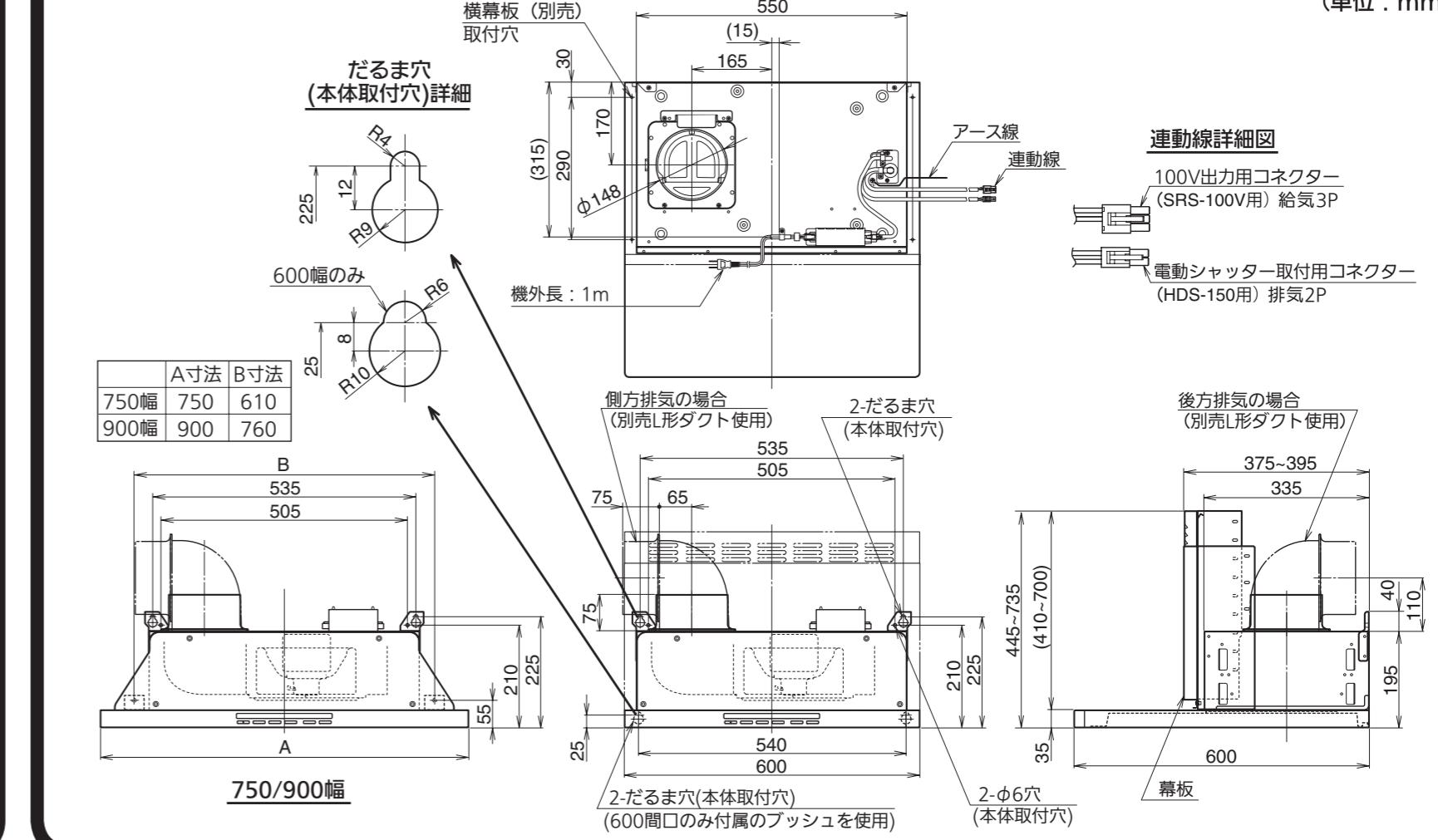
各部のなまえ



付属品



製品寸法図



1. 付属品の確認

△注意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること
手袋をする
- 鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

付属品を確認します。
梱包箱から付属品を取り出し、上頂中央の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い
・取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
・保護用のクッション材と固定テープは「6. 取扱説明書およびオイルパック固定テープの取りはずし」まではすばやいでください。
・床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

2. 排気方向の決定

△警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気に接触しないように取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

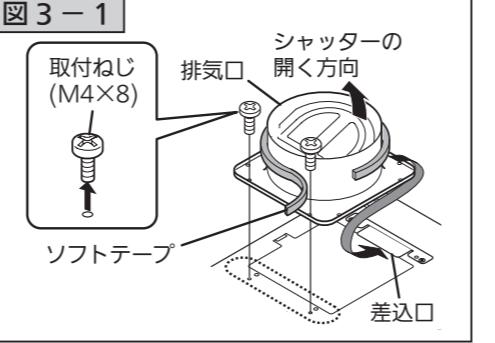
△注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40°C以上になると、落しによりけがをするおそれがあります
- 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。（ダクトの風漏れ防止のテaping作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください）
また、コンセントの位置を確認してください。

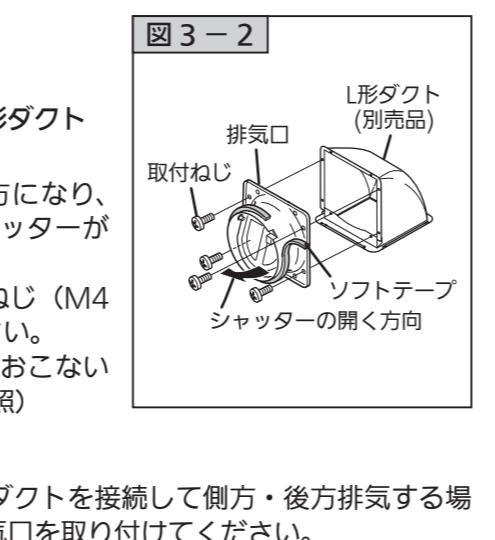
3. 排気用部品の準備

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。

- 上方排気の場合（図3-1）
排気口に付属品のソフトテープを貼り付けてください。
本体についているねじ2本を取りはずし後、付属品の排気口を取り付けます。
取付方向は右図を参照してください。



- 側方および後方排気の場合（図3-2）
(別売品のL形ダクトを使用する場合)
排気口に付属品のソフトテープを貼り、L形ダクトに取り付けてください。
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転しないときはシャッターが閉じるように取り付けます。
排気口は、L形ダクトに付属している取付ねじ（M4×8）4本でL形ダクトに取り付けてください。
本体への取り付けは、本体の取り付け後におこないます。（「5. ダクトと排気用部品の接続」参照）



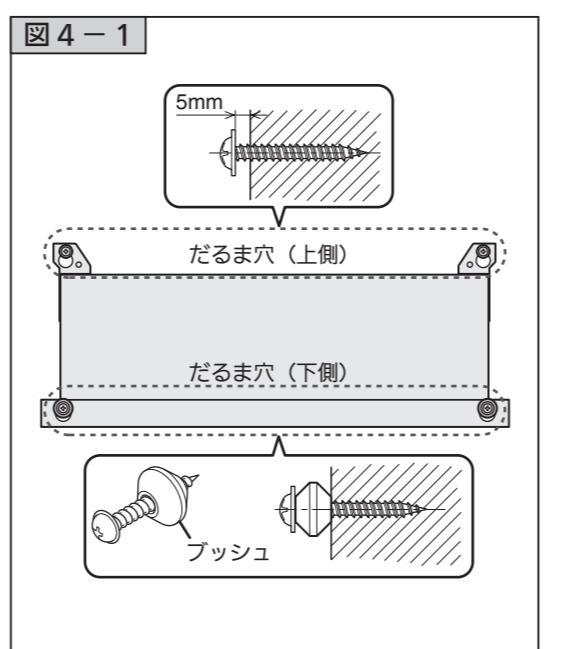
4. 本体の取り付け

△注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落しによりけがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落しによりけがをするおそれがあります

600mmの場合

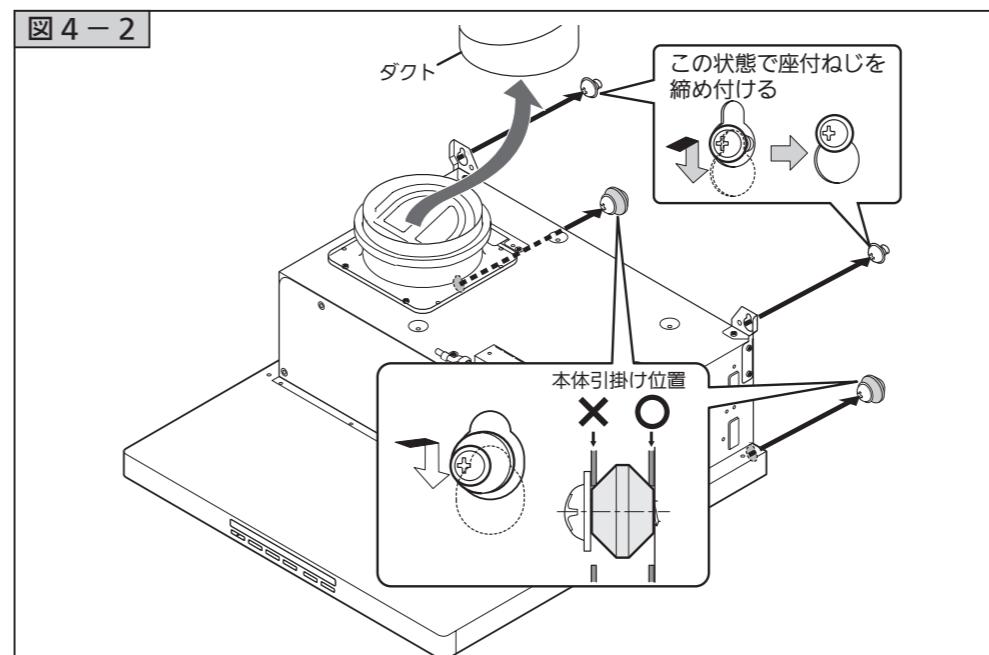
- 1 だるま穴用座ねじ4本を壁面にねじ込みます。（図4-1）



- 1) 別紙の原寸大型紙を参考し、上側のだるま穴位置（2ヶ所）に付属品の座ねじ（φ5.1×45）2本をねじ込み、壁面とのすきま5mmまで締め付けます。
- 2) 座ねじ（φ5.1×45）2本にブッシュを取り付け、下側のだるま穴位置（2ヶ所）にねじ込んでしっかりと締め付けます。

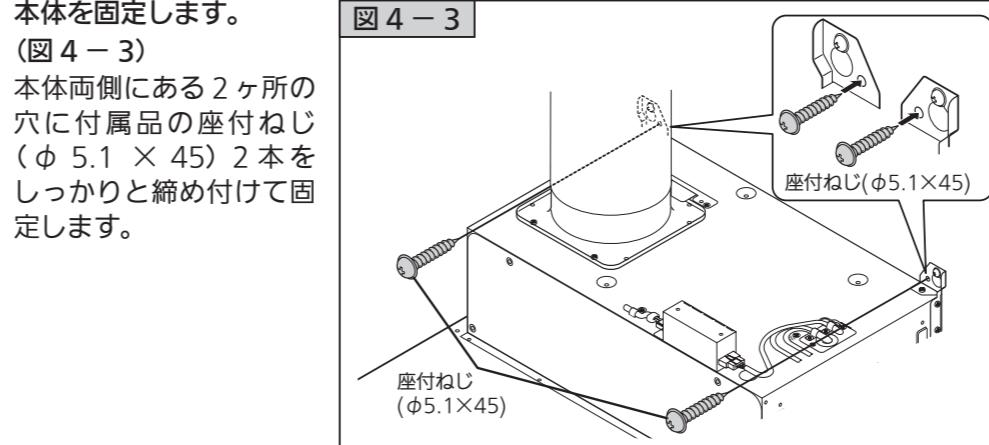
- * ブッシュが壁に嵌り込む程度に締め付けてください。
ブッシュが壁に嵌り込んでしまうと本体が取り付かないおそれがあります。

- 2 本体を引っ掛け固定します。（図4-2）
取り付けた座ねじ4本に本体のだるま穴を引っ掛けた後、しっかりと締め付けます。



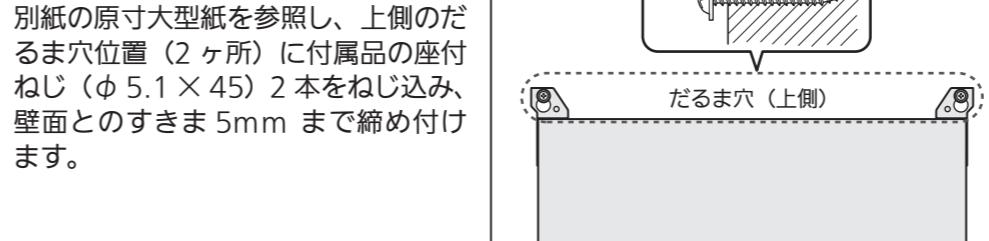
3 本体を固定します。

- （図4-3）
本体両側にある2ヶ所の穴に付属品の座ねじ（φ5.1×45）2本をねじ込み、しっかりと締め付けて固定します。

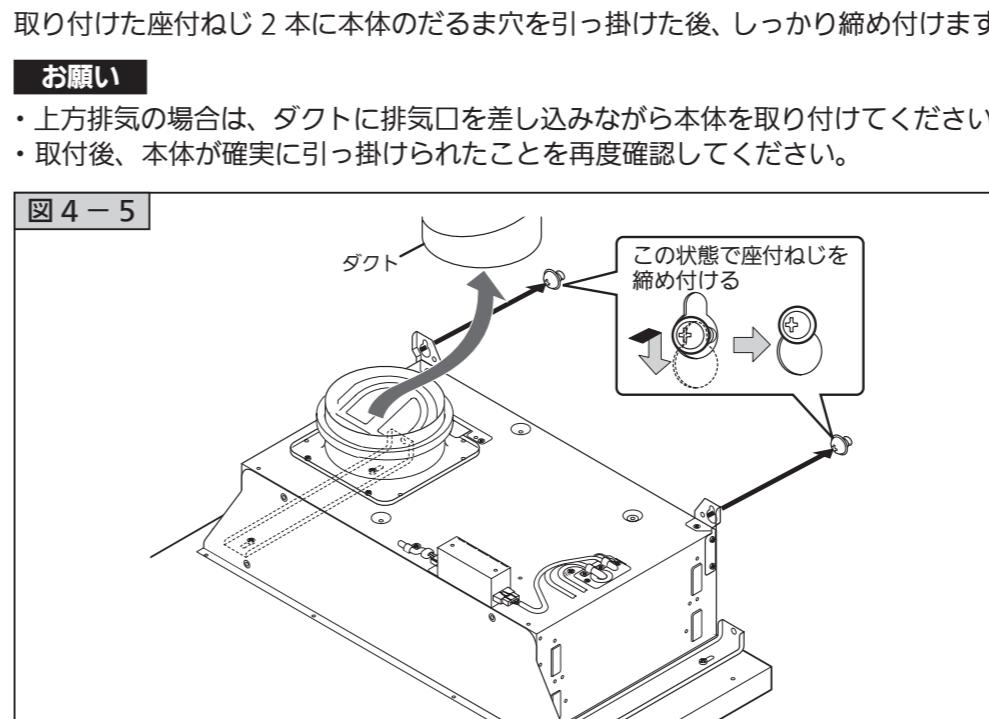


750および900mmの場合

- 1 だるま穴用座ねじ2本を壁面にねじ込みます。（図4-4）

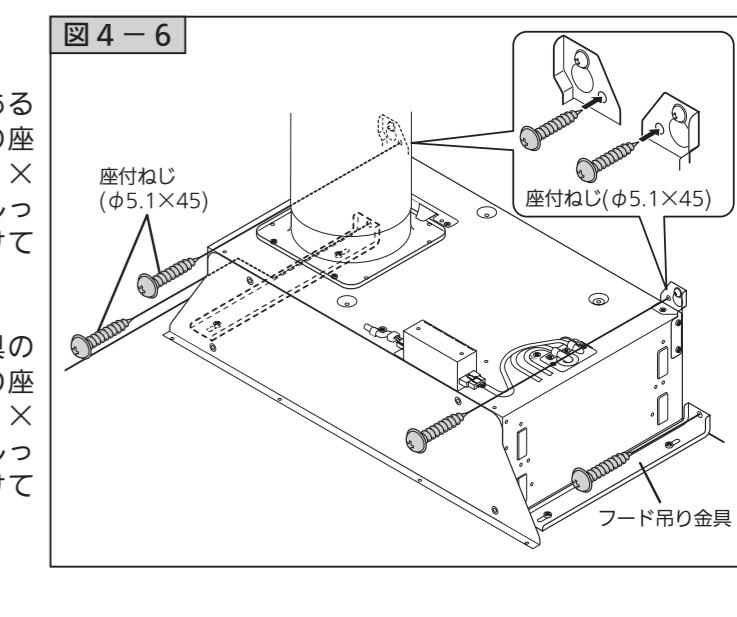


- 2 本体を引っ掛け固定します。（図4-5）
-
- 取り付けた座ねじ2本に本体のだるま穴を引っ掛けた後、しっかりと締め付けます。



- 3 本体を固定します。
(図4-6)

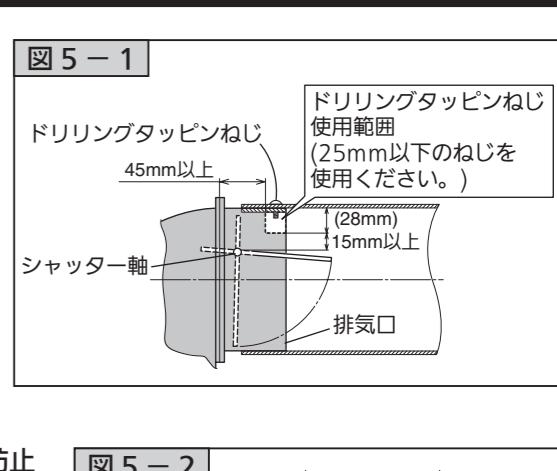
- 1) だるま穴横にある各穴に付属品の座ねじ（φ5.1×45）1本をしっかりと締め付けて固定します。
2) フード吊り金具の各穴に付属品の座ねじ（φ5.1×45）1本をしっかりと締め付けて固定します。



5. ダクトと排気用部品の接続

△お願い

- ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピングねじ使用範囲内に固定してください。（図5-1）
- 上方排気の場合
ダクトと排気口の接続部に風漏れ防止のテープ（アルミテープ）をおこないます。（図5-2）



- 側方排気および後方排気の場合（別売のL形ダクトを使用する場合）
1 排気口を取り付けます。（図5-3）
本体排気口取付位置に取り付けている取付ねじ2本を抜いた後、L形ダクトを本体上部の差込口に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はさした取付ねじ2本で取り付けます。

- 2 風漏れ防止のテープ（アルミテープ）をおこないます。（図5-3）
ダクトと排気口を接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。

- 3 排気口設置面の漏風確認のお願い（図5-4）
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
漏風の確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合には、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。



取り付けかたは裏面に続きます。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

取り付けかた (つづき)

6. 取扱説明書およびオイルパック 固定テープの取りはずし

- 保護用クッション材をいったん取りはずし、整流板に貼り付けてある取扱説明書をはずします。
- 付属の取扱説明書を参照して整流板を取りはずし、オイルパックを固定している固定テープをはずした後は整流板をもとどおりに取り付けてください。

7. 電気配線

△ 警告

- 分解・修理・改造禁止
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造しないこと
発火・感電したり、異常動作しがをするおそれがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備基準や内線規程に従って
法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

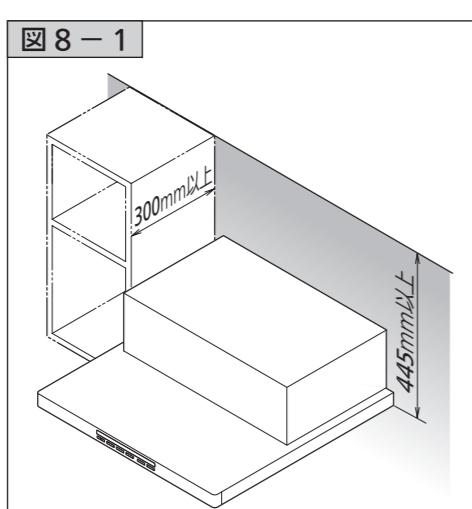
分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

- お願い
- 電源は専用のコンセント（2極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- 「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- コンセントまで電源コードの長さを考慮し、設置してください。
- 必ずアース（D種接地工事）をしてください。
- レンジフードの配線工事の際、壁スイッチを設置しないでください。

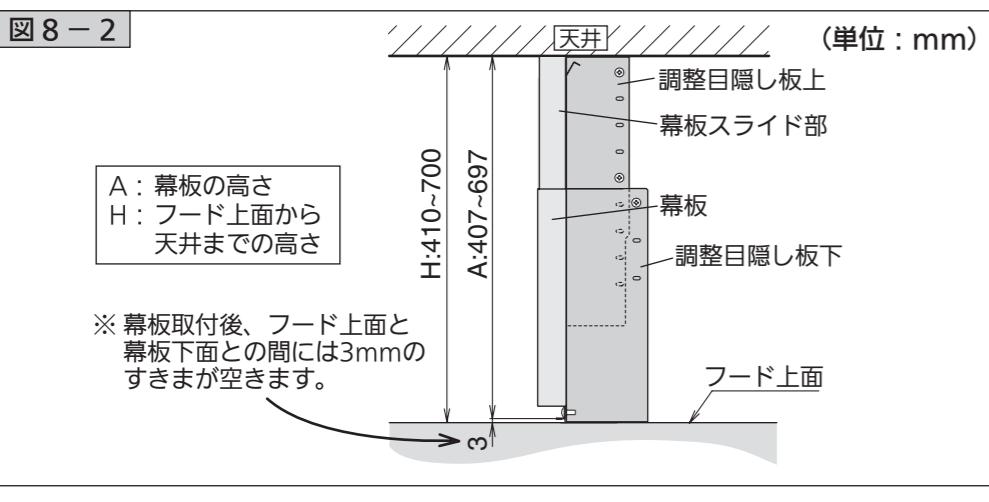
8. 幕板の取り付け

- 取り付け前の寸法確認（図 8-1）
フード下面から天井までの高さが 445mm 以上、また壁からキャビネット本体までの奥行き 300mm 以上あるかそれぞれ確認してください。

※ 奥行き 300mm 以下の場合は別売の横幕板をご使用ください。

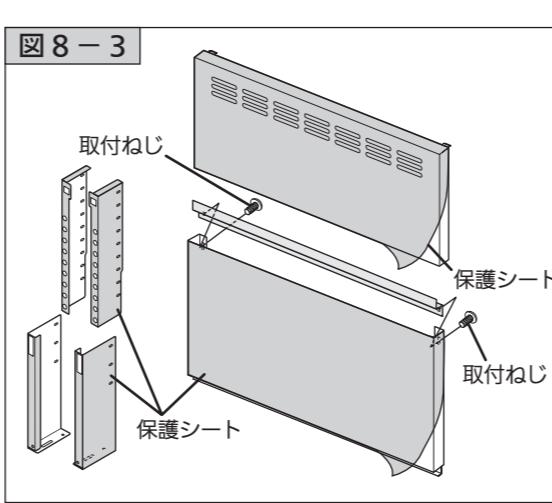


- 幕板取付高さ範囲（図 8-2）
次式により幕板の高さを算出し、幕板のスライド部を調整して高さを合わせます。
 $A \text{ (幕板の高さ)} = H \text{ (フード上面から天井までの高さ)} - 3\text{mm}$



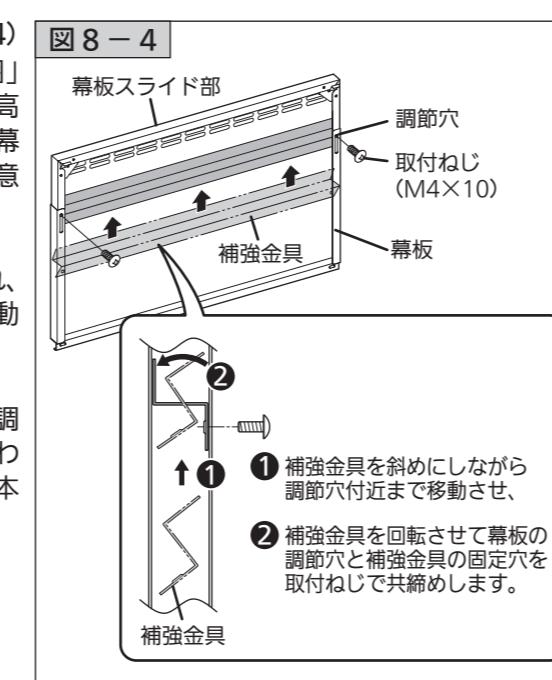
- 1 保護シートを剥がします。
(図 8-3)
幕板および調整目隠し板上・下に保護シートがついている場合
は、保護シートをはがします。

- お願い
- 保護シートを剥がした後はキズ
が付きやすいので十分注意して
ください。



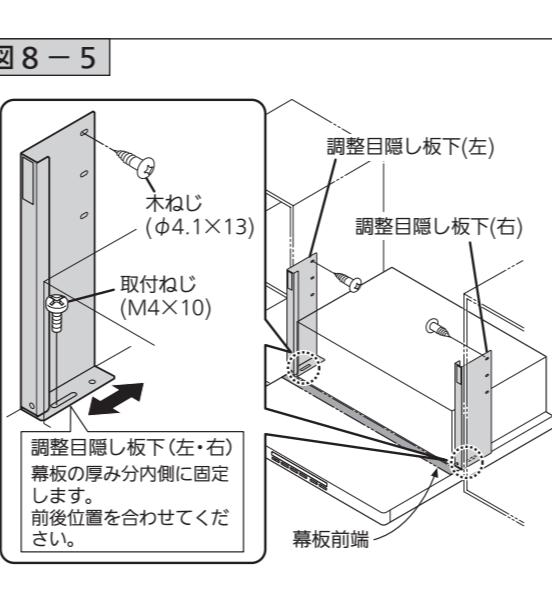
- 2 スライド部を固定します。（図 8-4）
※ あらかじめ「幕板取付高さ範囲」
(図 8-2) を参照して幕板の高
さ調整をおこなってください。（幕
板をキズつけないよう十分ご注意
ください。）

- 1 拡強金具を幕板裏面に差し入れ、
幕板の高さ調整穴付近まで移動
させます。
- 2 拡強金具を回転させ、幕板の調
整穴と拡強金具の穴位置を合わ
せ、取付ねじ（M4×10）2 本で固定
します。



- 3 調整目隠し板下（左・右）を取
り付けます。（図 8-5）

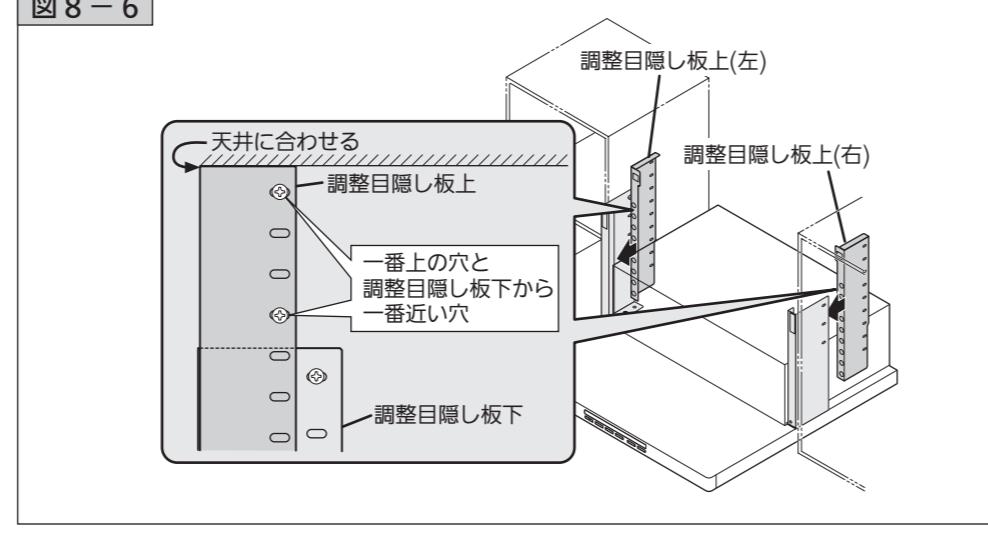
- お願い
- 調整目隠し板上・下を取り付
ける際は左右を間違えないよ
うご注意ください。
- 1) 調整目隠し板下を本体と
キャビネットの間に挟み込み、
付属品の取付ねじ（M4
× 10）で固定します。
- 2) 調整目隠し板下とキャビ
ネットを付属品の木ねじ
（Φ4.1×13）で固定します。



- 4 調整目隠し板上（左・右）を取り付けます。（図 8-6）

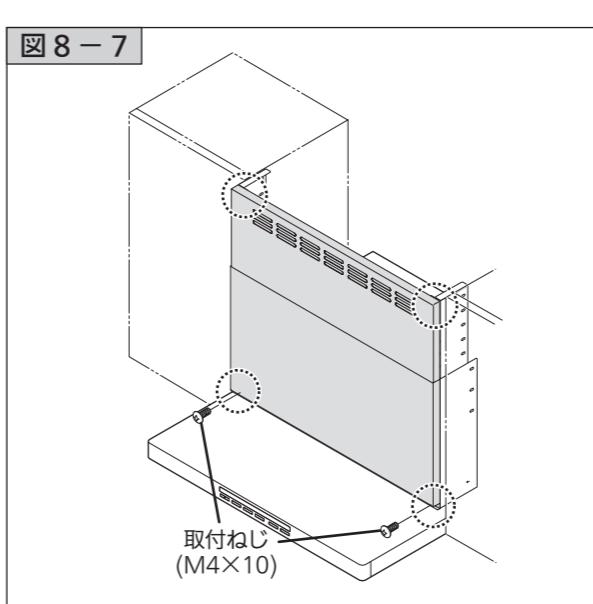
- 調整目隠し板上を調整目隠し板下に差し込み、天井に合うよう位置を調整して木ねじ 2 本で固定します。

※ 木ねじ 2 本は、うち 1 本を調整目隠し板上にある一番上の穴、もう 1 本を調整目隠し板下に最も近い穴に取り付けてください。



- 5 幕板を取り付けます。
(図 8-7)
1) 幕板裏面上部にある左右
のツメを調整目隠し板上
の穴に引っ掛けます。

- 2) 幕板と調整目隠し板下の
ねじ穴を合わせ、付属品
の取付ねじ（M4×10）
2 本で固定します。



9. 試運転

△ 注意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速度の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
※ 整流板を取りはずしている場合、自動運転停止機能が作動し、ファンは回りません。
必ず整流板を取り付けて確認してください。
- 异常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますが十分確認してください。
- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。

10. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。

〔販売元〕 フジテックメンテナス株式会社

〒252-0206 相模原市中央区端野辺 2 丁目 1-9

お問い合わせ 042-753-1447 (営業部 エアプロG)
FAX 042-768-3383
ホームページ http://www.airpro-pj.jp/
受付時間 9:00 ~ 17:45 (土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く)

〔製造元〕 富士工業株式会社

〒252-0206 相模原市中央区端野辺 2 丁目 1-9

お客様ご相談窓口 ☎ 0120-071-686
受付時間 9:00 ~ 18:00 (土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く)

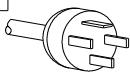
レンジフード連動ダンパー仕様取付補足説明書

この説明書は、連動ダンパー仕様として取り付ける際の補足説明書です。
取付説明書とあわせてご使用ください。

*本製品は、給気電動シャッターとの連動も行えますが、正しく配線されていませんと連動動作不良や短絡事故などの原因となります。電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。

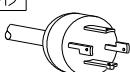
*プラグの形状を確認してください。

差込形



電気工事を容易にするために、電源用として3極接地極付差込接続器(15A 250V)を採用しています。コンセントは、JIS 3極接地極付差込接続器用(15A 250V)を使用してください。

引掛け形



電気工事を容易にするために、電源用として3極接地極付差込接続器(20A 250V 引掛け形)を採用しています。コンセントは、JIS 3極接地極付差込接続器用(20A 250V 引掛け形)を使用してください。



配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って安全・確実に行うこと。誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります。



取付注意



アースを確実に取り付けること。故障や漏電のときに感電する恐れがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。

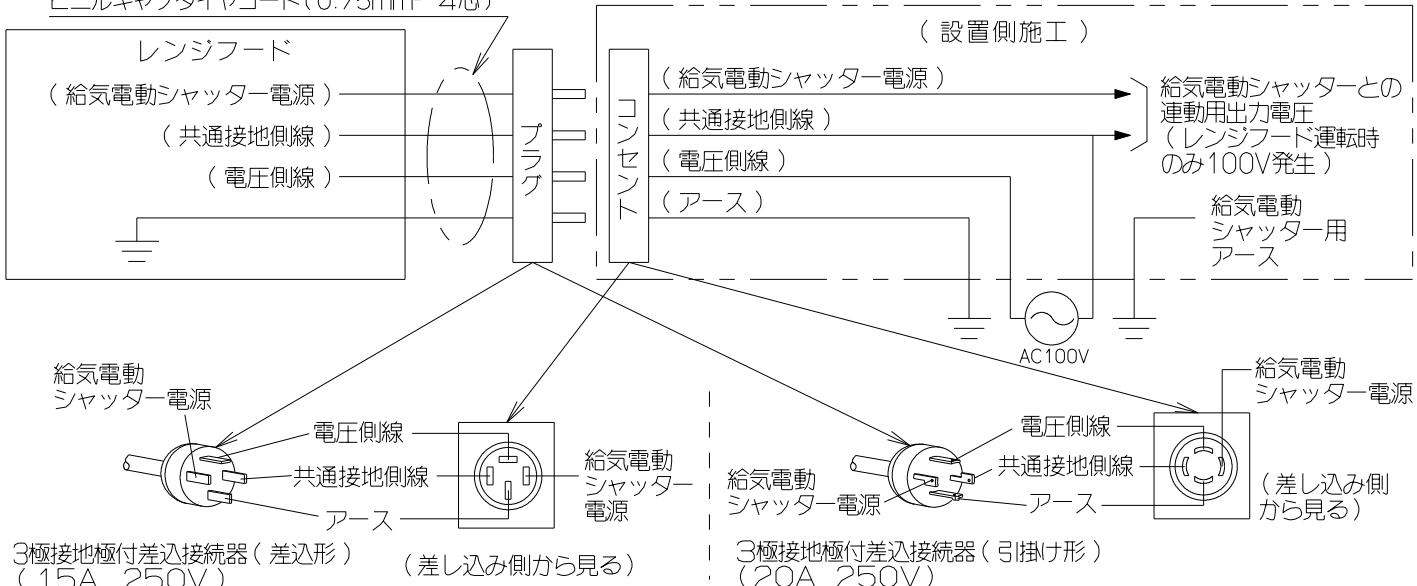


アースを取り付ける

1. 電気配線

(1) 本配線図通りに正しく配線してください。

ビニルキャブタイヤコード(0.75mm² 4心)



(2) 必ずアース(D種接地工事)をしてください。

(3) 電源プラグをコンセントに差し込みます。

2. 試運転

■ スイッチを操作して運転状態を確認してください。

スイッチの操作と運転については取扱説明書「使いかた」をご覧ください。

■ 運転時、各速調の排気が正しく行われていること。(各速調に差があることを確認してください。)

■ 異常な騒音や振動がないこと。

■ 給気電動シャッターがレンジフードの運転と連動し動作すること。